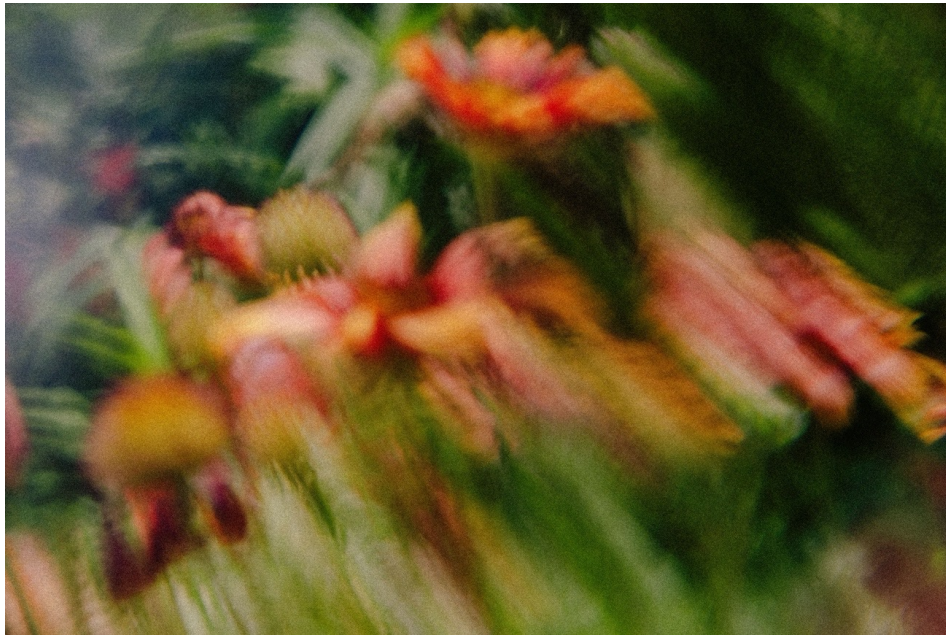


『いつでもいま – ガラスに映す光』 柿本ケンサク写真展

2026年9月23(祝・水) – 10月4日(日) 代官山ヒルサイドテラス・ヒルサイドフォーラム



新作『Hikari』シリーズ

東京代官山のgallery ON THE HILL(一般社団法人オンザヒル)は、2026年9月23日(水・祝)から10月4日(日)まで、代官山ヒルサイドテラス・ヒルサイドフォーラムにて『いつでもいま – ガラスに映す光』 柿本ケンサク写真展を開催いたします。

映画、ドラマ、広告映像を手がける一方、国内外で写真・現代美術作品を発表している柿本ケンサクは2016年、代官山ヒルサイドテラスにおける展示『TRANSLATOR』にて写真家として出発。2021年には『TRANSFORMATION』にて時間と記憶をめぐる実験へと進みました。そして2026年9月、三たび同じ場所に戻り、三嶋りつ恵の透明なガラスを通して写真を「光の記憶」として更新します。

写真は光を固定する。ガラスは光を揺らす。

ヒルサイドテラスで二つの光が出会い、記憶のための場所となる。

柿本ケンサクが、三嶋りつ恵のガラスに映った光で世界が別の形へ生まれ変わる瞬間を描く。

本展では、写真とガラスという二つの異なるメディアを通して、「固定」と「流動」、「定着」と「融解」、「点」と「線」の緊張関係を扱います。点として定着した光が線として時間へとほどけ、融解した記憶が見る者の中で再び像を結ぶ。この瞬間にしか生まれない対話の場となります。

柿本ケンサクは、三嶋りつ恵の10点のガラスを光を描くためのレンズとして用いました。ガラスの位置を数ミリ動かし、角度を変えながら、通過する光を捉えました。目の前の風景をそのまま写し取るのではなく、光や偶然と対話しながらシャッターを押すことで、時間の流れや季節の空気、身体の揺れ、ガラスの個性差が、記憶の痕跡として写真の中に残されています。写真とガラスという異なるメディアが交わることで生まれた光をぜひご覧ください。

光は輪郭を与える。

しかし同時に、その輪郭を溶かしてもいく。

その揺らぎのなかに、私たちは、言葉にならない世界の気配を見出す。

三嶋りつ恵のガラス作品は、その光を受け止め、屈折させ、揺らし、ふだんは見えないものを、かすかな気配として立ち上がらせる。

柿本ケンサクは、そのガラスを通過した光の痕跡をとどめ、時間、記憶、身体、光が、本来ひとつの連続体であったことを露わにする。

相互に存在が響き合うとき、光は心を照らし、像は「いま」として立ち上がる。

本展はガラスを通して、光がどのように記憶に触れ、どのように像となり、どのように再び揺らぎへと帰っていくのかを見つめる試みである。

柿本ケンサク

タイトル：『いつでもいま－ガラスに映す光』柿本ケンサク写真展
会期：2026年9月23日（水）－ 10月4日（日）12:00－19:00（最終日：11:00-17:00）
会場：代官山ヒルサイドテラス・ヒルサイドフォーラム
東京都渋谷区猿楽町18-8 ヒルサイドテラスF棟 1F
入場料：無料
主催：一般社団法人オンザヒル
協賛：LUMIX
展示販売作品：写真作品、写真集
お問い合わせ：info@galleryonthehill.com
URL：www.galleryonthehill.com

トークイベント

展覧会関連イベントとして、写真家の柿本ケンサクと、ガラス作家の三嶋りつ恵によるトークイベントを開催します。写真を通して光の一瞬を捉える柿本と、透明なガラスを通して光をかたちにしてきた三嶋。それぞれの表現における「光」や「時間」について語ります。

開催日時：2026年10月3日（土）16:00－17:30
会場：代官山ヒルサイドテラス・ヒルサイドフォーラム
東京都渋谷区猿楽町18-8 ヒルサイドテラスF棟 1F
出演：柿本ケンサク（写真家・映像作家）、三嶋りつ恵（アーティスト）
朝倉美佳（gallery ON THE HILL）
参加費：1,000円 ワンドリンク付
定員：60名
Ticket： <https://galleryonthehill20261003.peatix.com>

プレス内覧会

開催日時：2026年9月24日(木)14:00－17:00 ※柿本ケンサク在廊
会場：代官山ヒルサイドテラス・ヒルサイドフォーラム
東京都渋谷区猿楽町18-8 ヒルサイドテラスF棟 1F

展覧会や作家へのご取材やご掲載ご希望の際は、下記プレス担当者までご連絡をお願いいたします

PR担当：林悦子

メールアドレス：etsu7@me.com

LUMIX BASE TOKYO(東京都港区)では、『いつでもいまーガラスに映す光』柿本ケンサク写真展と連動し、LUMIX L10で撮影された作品による写真展を開催します。本展ではヒルサイドフォーラムとは異なる作品群を通して、柿本氏がLUMIX L10とともに生み出した新たな表現をご覧ください。

〔開催概要〕

タイトル：柿本ケンサク写真展『いつでもいま』

写真家：柿本ケンサク

会期：2026年9月23日（水）－10月4日（日） 11:00－19:00

※会期中の休館日：9月24日(木)、9月28日(月)、10月1日(木)

会場：LUMIX BASE TOKYO

東京都港区南青山2丁目11-17第一法規ビル1F

アクセス：東京メトロ 銀座線・半蔵門線、都営地下鉄 大江戸線「青山一丁目」駅より徒歩3分

東京メトロ 銀座線 「外苑前」駅より徒歩3分

主催：パナソニック株式会社

入場料：無料

事前予約：不要

写真展詳細ページ： <https://panasonic.jp/dc/event/itudemoima.html>



新作「Hikari」シリーズ



柿本ケンサク

演出家 撮影監督 写真家

映画、ドラマ、広告映像を手がける一方、国内外で写真・現代美術作品を発表。被写体の熱量や場に漂う空気、時間の密度を像に凝縮し、現在地としての「点」と、過去から未来へ連なる「線」を重ねながら、視覚を超えて知覚に働きかける表現を追求している。

2005年、長編映画『COLORS』を制作し活動を開始。2011年、映画『UGLY』『LIGHT UP NIPPON』を発表。2021年、NHK大河ドラマ『青天を衝け』のメインビジュアルおよびタイトルバックを演出し、映画『恋する寄生虫』が公開された。2025年には、Netflixシリーズ『グラスハート』で監督・撮影監督を務め、全世界配信。2027年には、Netflixシリーズ『寄生獣 -TAMIYA-』が全世界配信予定。

写真家としては、2016年に代官山ヒルサイドフォーラムで写真展『TRANSLATOR』を開催。2017年、ニューヨークのTaka Ishii Galleryで『HYOMEN』展、2021年には代官山ヒルサイドフォーラムで『TRANSFORMATION』展、渋谷PARCO GALLERY Xで『時をかける』展を開催し、国際美術展『水の波紋2021』に選出された。2022年、京都・音羽山清水寺で『一TIME一』展、2023年にはCanon Gallery 50周年企画として柿本ケンサク写真展『As is』を開催。

<https://kensakukakimoto.com/>

<https://www.instagram.com/kensakukakimoto/>



三嶋りつ恵

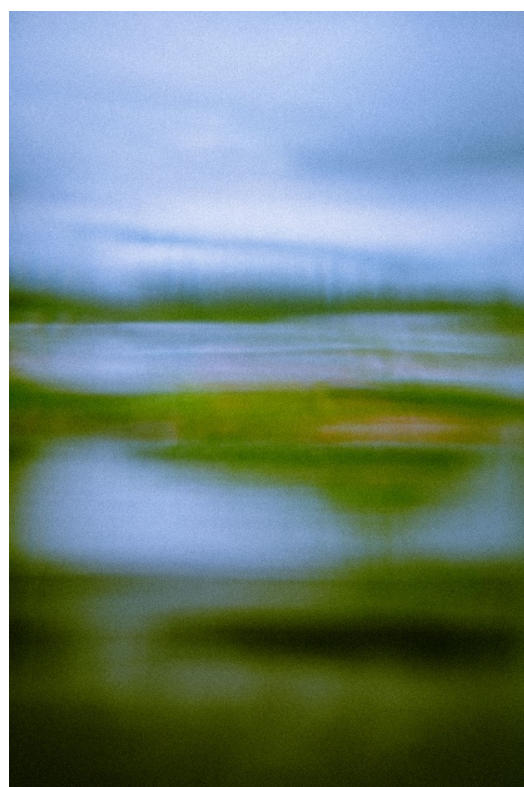
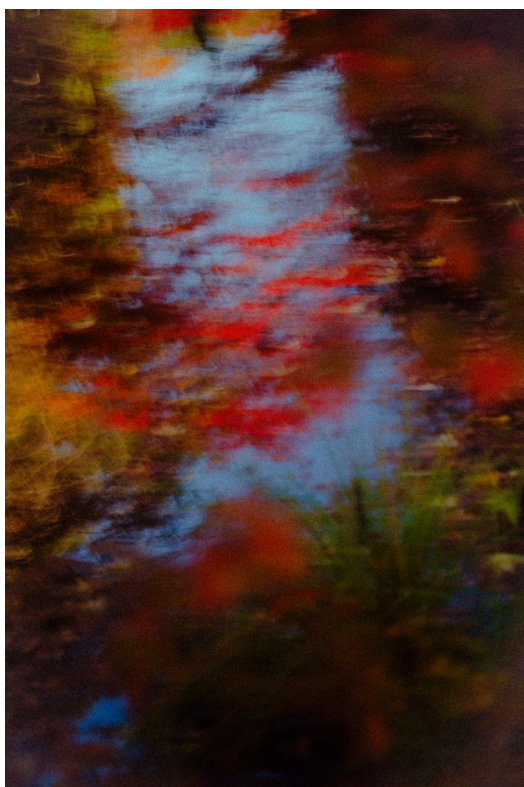
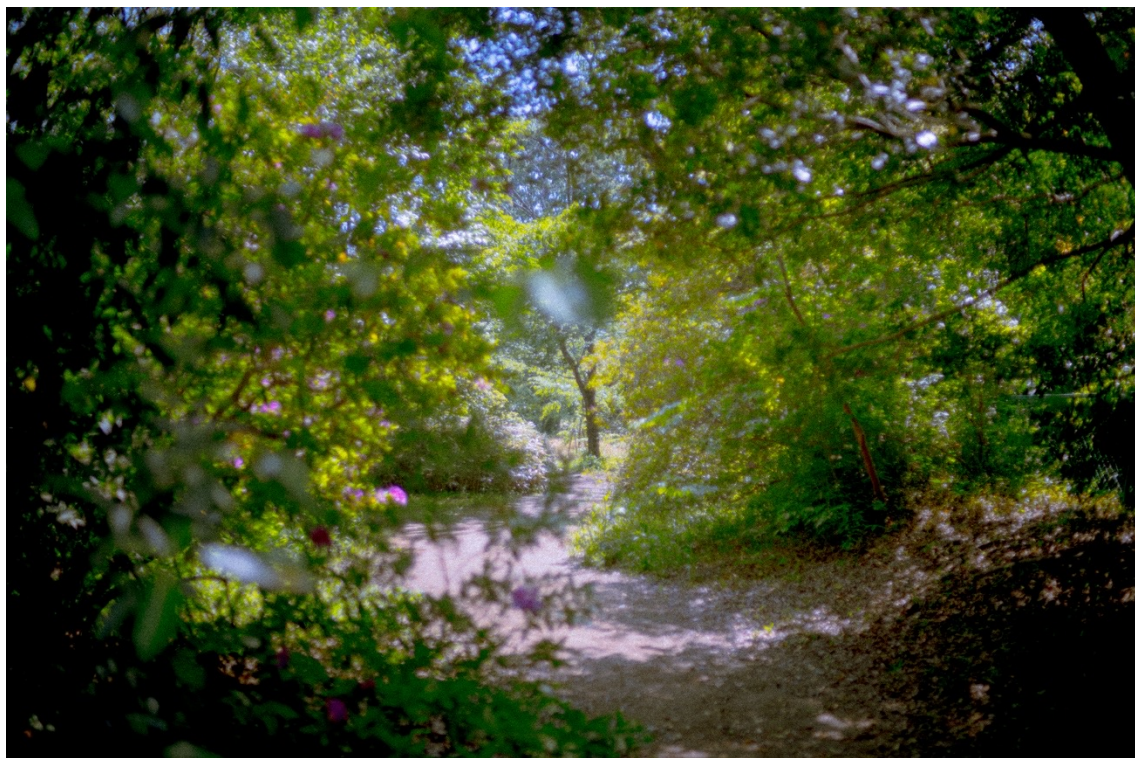
ガラス作家

1962年京都生まれ、1989年からヴェネツィアに移住、2011年より京都にも住まいを構え、二拠点を往復する生活を送る。ムラーノ島のガラス職人とのコラボレーションにより、ヴェネツィアン・ガラスの透明度や粘度を活かした、周囲に溶け込みながら光の輪郭を描き出す無色のガラス作品を制作する。空気や光を取り込んでその場のエネルギーを表現する作品は公共空間でのアートワークとしても評価が高く、近年では美術のみならず建築やファッション、デザインとジャンルを横断した活躍が続いている。（Photo by NOELLE HOEPPE）

<https://shugoarts.com/artists/ritsue-mishima/>









三嶋りつ恵氏によるガラスレンズ作品



タマレンズ



キンギョレンズ